

第7回 野生イノシシ豚熱対策検討会
令和6年3月22日

野生いのししにおけるアフリカ豚熱対策と基本方針について

農林水産省 消費・安全局
動物衛生課

1. アフリカ豚熱 (ASF) について : ASFとは

原因 : アフリカ豚熱ウイルス (2本鎖DNA・2重のエンベロープ。大きい。)

※環境耐性があり、食肉・死体等でも長期に感染性保持。

現在の世界流行株では急性経過で死亡。

宿主 : 豚、いのしし (軟マダニ (日本未生息) によっても媒介) ※人には感染しない

分布 : アフリカ、欧州の一部 (ロシア及びその周辺国、東欧) のほか、**2018年 (平成30年) 8月に中国で発生 (アジアで初の発生) 。以降、アジア地域での発生が拡大。**※**日本未発生。**

症状 : 甚急性～不顕性まで幅広い病態を示す。(豚熱より白血球数はやや高め。甚急性では所見なく死亡)

※豚熱に酷似するがより病原性は強い傾向。

急激に衰弱・死亡 + 死体中ウイルスの長期残存→イノシシでは死体対策が重要

対策・予防 : 水際対策の徹底 (国内未発生) 。飼養衛生管理の徹底。有効なワクチンは存在せず。

→豚における最強の悪性伝染病との評価も。

防疫対応 : 全頭殺処分。(豚熱と異なり、必要があれば予防的殺処分の実施が認められている。)

野生イノシシの感染確認でも、状況によっては農場の予防的殺処分の対象に !



耳翼の紅斑
(その後、死亡直前に紫斑)



元気消失・下痢



脾臓の鬱血性脾腫

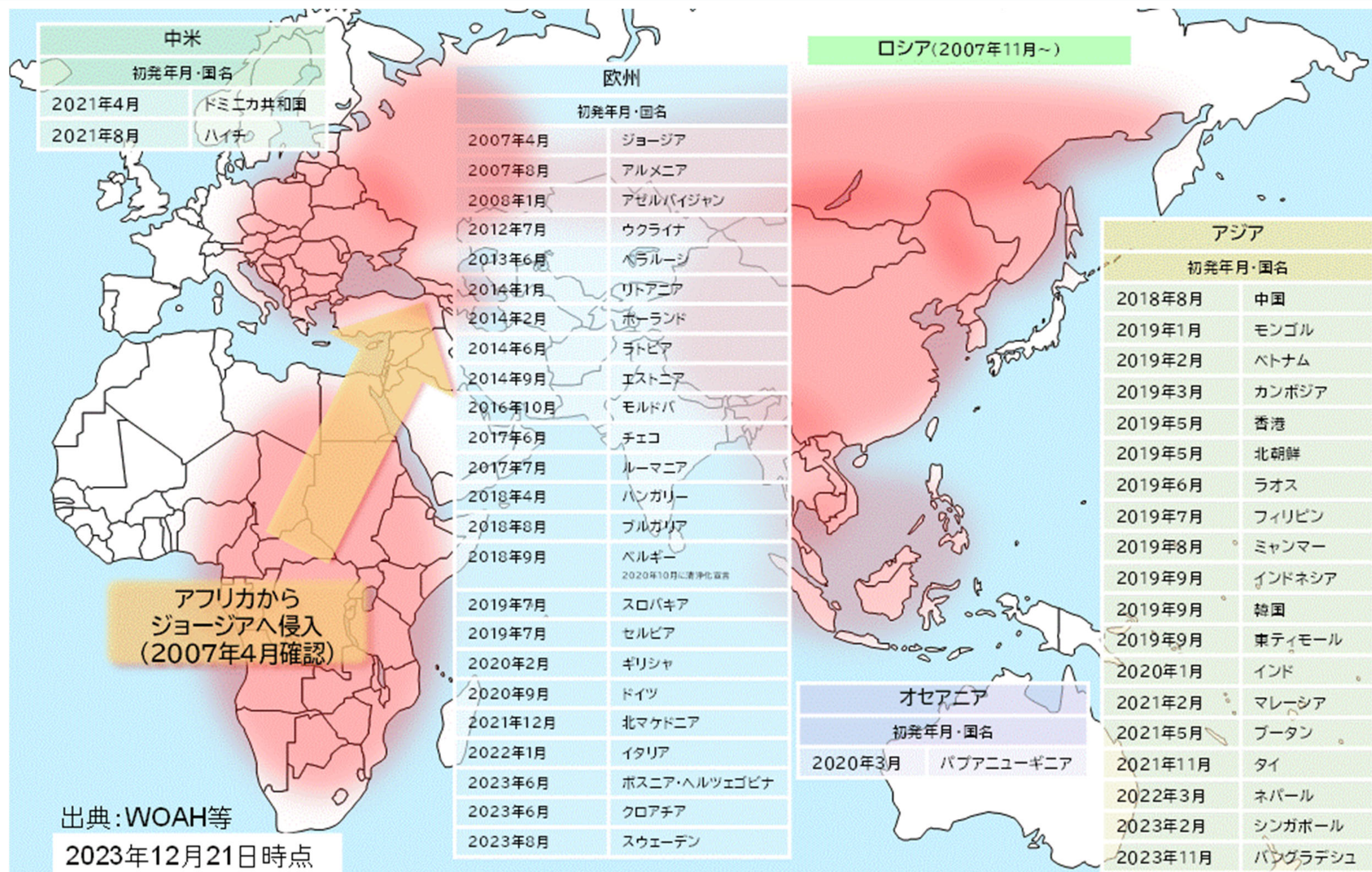
(写真出典 : 農研機構 動物衛生研究部門)

1. アフリカ豚熱（ASF）について：豚熱とアフリカ豚熱の違い

		豚熱 日本発生済	アフリカ豚熱 (豚の最強・最悪の伝染病とも言われる) 日本未発生
病原体		豚熱ウイルス：エンベロープ1重・RNAウイルス	アフリカ豚熱ウイルス：巨大ウイルス・エンベロープ2重・DNAウイルス
宿主		豚・いのしし ※人には感染しない	豚・いのしし（軟ダニ*：日本なし） ※人には感染しない
環境耐性		<一般的なRNAウイルス> ・室温で数日～2週間。4℃でも1～2か月。	<極めて高い> ・消毒耐性あり ・野外死体中で数か月単位。畜産物での冷蔵で年以上。
臨床所見		・発熱・死亡・元気消失・下痢等	・発熱・死亡・元気消失・下痢等（甚急性の場合は無症状で突然死もある。）。口・鼻・肛門からの出血（鮮血）がみられる場合も。 ・通常感染後急死→いのししでは近い場所で大量死
		(死体の見た目での判別は困難)	
豚 対策	ワクチン	あり	なし
	防疫	殺処分	殺処分・ 予防殺あり （野生いのししでも適応可能性アリ）
	被害	豚：20都県計89事例 約36.8万頭の殺処分 いのしし：34都府県・約6.4千頭(9万7千頭中)	未発生
主ないのしし での感染源		・感染した生体 ・排泄物	・感染による死亡個体 ・排泄物 ・感染動物に由来する畜産物
		・人/モノを介した伝播	
いのしし対策		サーベイランス（検査） ワクチン散布 捕獲強化 衛生対策の徹底	サーベイランス（検査） 防疫措置 <周辺の積極的な死体探索・死体処理> 捕獲強化 衛生対策の徹底

*Ixodida（マダニ）科のOrnithodoros（ヒメダニ）属の軟ダニ（日本国内に広く存在するマダニとは別種）

2. アフリカ豚熱の感染拡大：2007年以降



2. アフリカ豚熱の感染拡大：釜山での野生いのししASF感染の急拡大①



我が国への侵入リスクが極めて高い状況

2. アフリカ豚熱の感染拡大：釜山での野生いのししASF感染の急拡大②

- 1月19日（金）：韓国当局発表（17時頃）
- 1月22日（月）：山口県、福岡県、長崎県（+大阪府・九州）担当者緊急会議
- 1月29日（月）：山口県、福岡県、長崎県（+大阪府）担当者打合せ
- 1月30日（火）：全国担当者会議（推定1,000名以上の参加）
- 2月7日（水）：野生いのししにおけるアフリカ豚熱防疫措置全国研修会

坂本農林水産大臣記者会見



2月2日の会見冒頭でアフリカ豚熱対策の重要性についてご発言。
さらに、外国人旅行客が増える春節を控え、2月9日の会見でアフリカ豚熱について改めてご発言。

農水省公式X（旧ツイッター）



- ・373万回表示
- ・1.1万件リポスト

テレビ報道



フジテレビ「めざまし8 ニュース」
**ASF侵入の怖さを解説する
コーナーが15分程度放映**



他、NHK等多数